

大阪事務所
〒569-0804
高槻市紺屋町11-1 FKBビル2F
TEL 072-685-7188
FAX 072-685-7189

国会事務所
〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館414号室
TEL 03-3508-7266
FAX 03-3508-3536

発行:ケンタネット

2016年臨時国会

最多の質問

TPPでも



▼TPP特別委員会「場外編」(産経ネットニュースより)

【衆院TPP特別委】

日本人男性の精子は減っている？ 維新・松浪健太氏が塩崎恭久厚生労働相に質問 その意図は…

ツイート 反応 おすすめ 5 G+ 0 プッシュ通知

18日のTPP特別委員会で、松浪健太氏が日本人の男性の精子が減っていると、政府に見解をたじた。一見、TPPとは無関係と思いきやー

冒頭、「一般に日本人男性の精子の数が、親世代の半分になっているのでは」と切り出し、政府の見解を求めた。

塩崎泰久厚労相は「以前実施した、調査研究では精子減少は認められなかった。よく環境ホルモンとの因果関係を指摘されるが、明らかでない。しかし今後も科学的な情報を収集・蓄積していく」と述べ更に取り組む考えを示した。

「気付いたときには遅かった、ということになる。以前、多摩川のコイの精巣の大きさの変化と環境ホルモンの因果関係が指摘されたことがあった。人の体に対して原因は複合的だ。食の問題は、謙虚でなければいけない」と述べ、その後食の安全に関連した質疑に移った。

「除草剤をかけても枯れない遺伝子組み換え作物がある」と松浪氏は先ずはその危険性を指摘。

塩崎氏は「厚労省や自治体で、安全性が確認されない遺伝子組み換え食品が流通しないよう、取り締まりを行っている」と答弁。

「国民は信じていない。食品に『遺伝子組み換え』と表示する基準を厳しくすべき。その場合にTPPが障壁となるか」と更に質問。石原伸晃経済再生相は「科学的な根拠があれば、わが国独自で制度を変えることは可能だ」と述べた。

TPPでは輸入食品の増加が見込まれており、食の安全は国民の関心事の中心となっている。精子をめぐる議論は、その前振りだったようだ。 ～産経ニュースより抜粋～

TPP特別委員会でも最多質問

2016年 臨時国会 ダイジェスト

「食の安全」で議論をリード

◆消費者目線から矛盾を突く

通常国会の予算委員会では、松浪ケンタは党内で最多の質疑を行いました。今秋の臨時国会でも、最大の焦点となったTPP特別委員会において、運営メンバーを務めながらも最多の6回の質疑に立ちました。特に遺伝子組み換え食品や成長ホルモンの使用について、消費者の目線からケンタが指摘した矛盾点は、各党が続いて取り上げるようになり、TPPの議論における大きな論点の一つとなりました。

◆「存在しない義務表示」問題

【10月18日、集中質疑】

ケンタ「日本で使用される大豆の8割以上が遺伝子組み換えだが、スーパーで『組み換え』表示はほとんど存在しない。しょう油やサラダ油に使う場合は、表示義務がないから抜け穴になり、消費者の目をあざむいている」。

この「存在しない義務表示」問題に、松本純・担当大臣の答弁はあやふやとなり、与党もこれを問題視。その後、各党が集中的に取り上げるようになりました。

【10月21日、参考人質疑〈農業〉】

ヨーロッパを例に消費者の意識が、遺伝子組み換えや成長ホルモン促進剤への防波堤になると指摘。

【10月25日、参考人質疑〈食の安全〉】

専門家と食の安全性をめぐる質疑。



【10月31日のNHK中継より】

▲答弁する総理
◀パネルを駆使してテレビでもわかりやすく工夫

【10月27日、宮崎県での地方公聴会】

河野俊嗣・宮崎県知事に食育の現状と課題について質疑。

【10月31日、総括的集中質疑】

トウモロコシを例に、コーンフレークには「遺伝子組み換え」の表示義務がないことの問題点などを指摘。松本担当大臣に質す。

【11月4日、締めくくり総括質疑】

「遺伝子組み換え」の表示について、消費者が混乱しない新ルールをケンタ自らが考案して提案。安倍総理からも前向きな答弁。

【11月4日、賛成討論】

将来的に東アジア地域包括的経済連携(RCEP)を見据え、中国に対してルール作りを先行するTPPの長期的利点を強調。

◆維新提出の附帯決議が可決！

農地の所有のあり方なども含めた抜本的な農業改革の必要性や食の安全について、主導してまとめ維新提案の附帯決議が与党の賛同も経て可決されました。

ケンタの国会質問がネットで見られる！

★ ヤフーなどの検索画面で と入力

➡ をクリック ➡

➡ 「松浪健太」と入力(日付は平成28年1月以降で)